



本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



中咽頭がん 治療編1 034：『食わんと死ぬ！食わんと死ぬ！』

2017年4月29日（土）抗がん剤点滴から4日目
（抗がん剤治療1/2回目・放射線治療5/39回目）

抗がん剤を打ったばかりで、副作用もありますが、

なんと、土日は自宅に一泊しても良いのですが、流石に外出は控えました。

夜は、トモが買ってきた、マグロとサーモンの刺身を食べましたが、変な味です。

吐き気は随分と治まりました。食欲も多少は出てきたのですが、問題は味覚です。薄いのは勿論、甘味や辛味、また温度の感じ方もバラバラなので、記憶にある、または、想像とは違う変な味なのです。そもそも、がん患者として入院し、治療をしているのに、こうして家で家族と共に『普通に』ご飯を食べて、自分の布団で寝ていること自体が変な感覚でもありました。

トキは毎度、思います。『僕は本当にがん患者なのだろうか？・・・この問いも飽きてきたな』

日曜日の昼過ぎには『病院』に戻ります。本来、戻るべきは『我が家』なのですが、今は、そんな感覚も仕方ありません。

2017年5月1日（月）
（抗がん剤治療1/2回目・放射線治療6/39回目）

やりました！パンです！朝食に温かいロールパンが2個出ました！

トキは、カボチャのポタージュに浸して、『飲み込み』ました。牛乳やジュースも『流し込む』を手伝います。微かに感じる味を頼りに、固形物を出来るだけ小さく切って、液体で流し込むのです。トキは命がけで食べています。まさに、食べることは、生きることです。



トキは流し込みながら、心の中で何度も何度も、こう叫びました。

『食わんと死ぬ！食わんと死ぬ！食わんと死ぬ！』

因みに、トキは四人部屋にいます。トキ以外の三人は、いずれも70～80歳代のおじいさんです。

トキと同じ頭頸部のがん治療と思われるが、誰も鼻にチューブを入れていません。味覚で苦戦している感じもありません。治療や入院している目的が違うのでしょうか？いずれにしても、まだ1週間。すれ違いざまに挨拶をする程度。しかも、トキは抗がん剤治療で、まいっていました。まだまだ、これからです。

トキは、チャンスがあれば、治療の先輩たちに、色々と話を聞きたいと思っていました。

さて、ウタから5月分のカレンダー『作ったよ！』との写メが届きました。トキの誕生日にはドーナツのシールが貼ってあります。明日、届けてくれるそうです。



トキには支えてくれる家族がいます。妻のトモは勿論のこと、思春期でありながら、父親のがん治療を怖がらず、波風立てずに応援してくれる娘、ウタがいます。これは本当に本当に幸せなことです。

⇒ **035 : 治療完遂ハラト作戦其の1。**